

一日も早い拉致被害者の救出に向けて 政府主催国際シンポジウム

「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」（12月10日～16日）の初日に当たる昨年12月10日、「政府主催国際シンポジウム」が東京都千代田区内で開かれた（政府拉致問題対策本部と法務省の主催）。

今回のテーマは、拉致問題をはじめとする北朝鮮の人権侵害に対する責任追及のための国際連携のあり方と、一日も早い拉致被害者の救出に向けた取組みについて。



第一部の基調講演は、前国連北朝鮮人権状況特別報告者のマルズキ・ダルスマンさんの講演原稿を代読する形で行われた。マルズキさんは、これまでに明らかになつた北朝鮮の深刻な人権侵害の状況を報告するとともに、

責任追及のための国連の取組みについてその経緯やねらい等について話した。

また、パネルディスカッションでは、イ・ジョンフン韓国外交部北朝鮮人権国際協力大使、ヒョン・ソニル元韓国国家安保戦略研究院首席研究委員、タレク・チェニティOCHR（国連人権高等弁務官事務所）ソウル事務所副所長、野口元郎・ICC（国際刑事裁判所）被害者信託基金理事長がパネリストとして登壇し、星野俊也・大阪大学大学院国際公共政策研究科教授のモデレーターのもと、議論を交わした。

このうち、北朝鮮の元外交官という経歴を持ち、1996年に脱北し韓国に入国したヒョン・ソニルさんは、「北朝鮮の指導部は、人権に対する認識そのものが不足しており、北朝鮮に人権問題はないと思っ

た。さらに、

国際社会の北朝鮮に対するアプローチに対し、北朝鮮の国民一人ひとりに人権意識や国際社会の動きを伝えることが有効だろう」と述べた。

第二部では、拉致被害者・特定失踪者の家族と支援者による合唱グループ「あなたを忘れない」を歌う会」によるミニコンサートが行われ、最後には来場者も一緒に「ふるさと」を合唱した。

なお、このシンポジウムの模様は、北朝鮮に向けてラジオで生中継された。また、シンポジウム後、北朝鮮向け短波ラジオ放送「ふるさと」の風」「しおかぜ」の共同公開収録が、内閣官房拉致問題対策本部事務局と特定失踪者問題調査会の主催で行われ、警視庁音楽隊や有志によるコンサートの模様も北朝鮮へラジオで生中継された。



えせ同和行為根絶のための課題

えせ同和行為対策セミナー

えせ同和行為対策セミナー・高松会場が昨年12月、香川県高松市内で行われた（経済産業省中小企業庁、四国経済産業局、（公財）人権教育啓発推進センター主催）。セミナーでは、人権啓発ビデオ「それでええんか!? 暴力団等反社会的勢力からの不当要求撃退法」（（公財）暴力追放広島県民会議企画）の第3話「公共工事下請け参入要求の撃退法」の上映と、2人の講師による講演が行われた。



「同和問題の完全な解決こそ、えせ同和行為を根絶す

た。さらに、

国際社会の北朝鮮に対するアプローチに対し、北朝鮮の国民一人ひとりに人権意識や国際社会の動きを伝えることが有効だろう」と述べた。

第二部では、拉致被害者・特定失踪者の家族と支援者による合唱グループ「あなたを忘れない」を歌う会」によるミニコンサートが行われ、最後には来場者も一緒に「ふるさと」を合唱した。

なお、このシンポジウムの模様は、北朝鮮に向けてラジオで生中継された。また、シンポジウム後、北朝鮮向け短波ラジオ放送「ふるさと」の風」「しおかぜ」の共同公開収録が、内閣官房拉致問題対策本部事務局と特定失踪者問題調査会の主催で行われ、警視庁音楽隊や有志によるコンサートの模様も北朝鮮へラジオで生中継された。



るための道である。えせ同和行為を企業防衛の観点からだけで考えることのないようにしてほしい」と話した。

続く上枝康さん（香川県弁護士会民事介入暴力問題対策委員会委員長、弁護士）の講演では、えせ同和行為に対する具体的な対応のしかたについて解説が行われた。

同セミナーは、高松会場の他、1月と2月に山口市及び鹿児島市を会場に実施された。
*「えせ同和行為対応の手引」は法務省のホームページ (<http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken86.html>) からダウンロードできます。

2社が事例発表

企業の社会的責任と人権セミナー

「平成28年度『企業の社会的責任と人権』セミナー・川崎会場」が昨年12月、神

奈川県川崎市内で開かれ、基調講演と企業2社の取組事例発表が行われた（経済産業省中小企業庁、関東経済産業局、（公財）人権教育啓発推進センター主催）。



基調講演では、田村太郎さん（一財）ダイバーシティ研究所代表理事）がCSRと人権をめぐる世界的な潮流や、職場における多様性に配慮した取組みについて解説。その上で、「社会的責任や人権への取組みを企業だけでなく、NPOや行政とともに地域全体で推進する視点」を提案した。

また、事例発表では、建設機材のレンタルを行う拓新産業（株）が「働き方改革」について、また、包装資材の開発等、パッケージ業務を行うニッパ（株）が障がい者雇用について、各社の取組みを発表した。

「ミルカ・ミルカ」は、ベルギーの先住民族の言葉・ケチュア語で「さまざまな色やもの」の意味です。このコーナーでは、人権に関するさまざまな情報を幅広く紹介していきます。